

# 幼稚園における食育計画のための取り組み

ほそいようこ あらきゆうこ

○細井陽子 荒木裕子 (九州女子大学家政学部栄養学科)

## 【背景】

未就学児の食育に関しては平成16年に厚生労働省より「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針」が出され、平成21年には「保育所保育指針」に食育の推進が盛り込まれている。幼稚園に関しては平成20年「幼稚園教育要領」の改訂の際に食育の文言が明記された。

一方、今後の国の施策が幼保一元化・一体化へ進む方向性にある中で、幼稚園、保育所での食育の指導計画の充実がのぞまれている。

## 【目的】

大きなねらいは運動・栄養などの生活習慣全般を含めた総合的な食育プログラムが普及することである。

また、幼児の時期の生活体験を豊かにすることにより、その後の小中学校における食育へとつなげたいという意図もあり、よりよい食育プログラムを開発したい。

そこで今回、幼稚園、保育所において食育の指導計画を作成、実施していく際に地域からの支援体制が求められていることもふまえて、今後の方策を練るため「園児の日頃の運動や食生活に関する実態調査」を行った。

## 【方法】

北九州市内の2つの幼稚園において食育推進の方策を探るため幼児の生活習慣および保護者の食に対する意識等について自記式質問紙調査を行った。

対象は「幼児の体力向上プロジェクト研究」を継続的に行っている2幼稚園の保護者、運動遊びに力を入れている幼稚園88名、食育に力を入れ、玄米食の給食を行っている幼稚園166名である。

## 【結果】

保護者に園児の食事に関して困っていることがあるかを尋ねたところ、最も回答が多かったのは好き嫌いが多いことで、保護者のうち29.5%にのぼった。次いで食欲のむら18.9%、小食11.4%がそれに続く。また、食事づくりに関して困っていることを尋ねたところ、栄養のバランスについて困っている保護者は39.4%、料理のレパートリーが少ないこと28.7%、どのくらい食べさせたらよいかわからないという回答が8.3%あった。しかし幼稚園に求める食育・食に関する体験活動は保護者自身の調理実習は18.5%に過ぎず、園児の菜園活動61.4%、園児の調理実習54.3%、食事マナー48.4%など子どもに対して教育をのぞむ声が高かった。

その他の園の教育活動で関心のあるものは運動活動63.0%に次いで野外活動57.5%、表現活動47.6%あった。制作活動は37.4%、知的活動は25.6%であった。

## 【ラウンドテーブルでの検討課題】

- ・本当に相手のためになる支援にするにはどのような点に配慮すればよいか？
- ・アプローチとしては子ども・保護者・園のいずれに力点をおいたものにすれば効果的か？
- ・運動・食・生活習慣をつなぐための工夫
- ・小学校における食育へ繋ぐための工夫
- ・幼稚園でのプログラムを保育園に展開する場合の留意点

E-mail ; [hosoi@kwuc.ac.jp](mailto:hosoi@kwuc.ac.jp)